バレーボール部

1990(平成2年)　第43回全日本インカレ。エース藤沢のレフトからのスパイク。コンビネーションバレーが中心となった現在でも、決定力を持つエースの存在がチームの強さを大きく左右する。

1939(昭和14年)・夏　秋田県大舘高校にてコーチする藤島、安井。

1942(昭和17年)　秋のリーグ戦にて、創部以来初めて早稲田を破る。

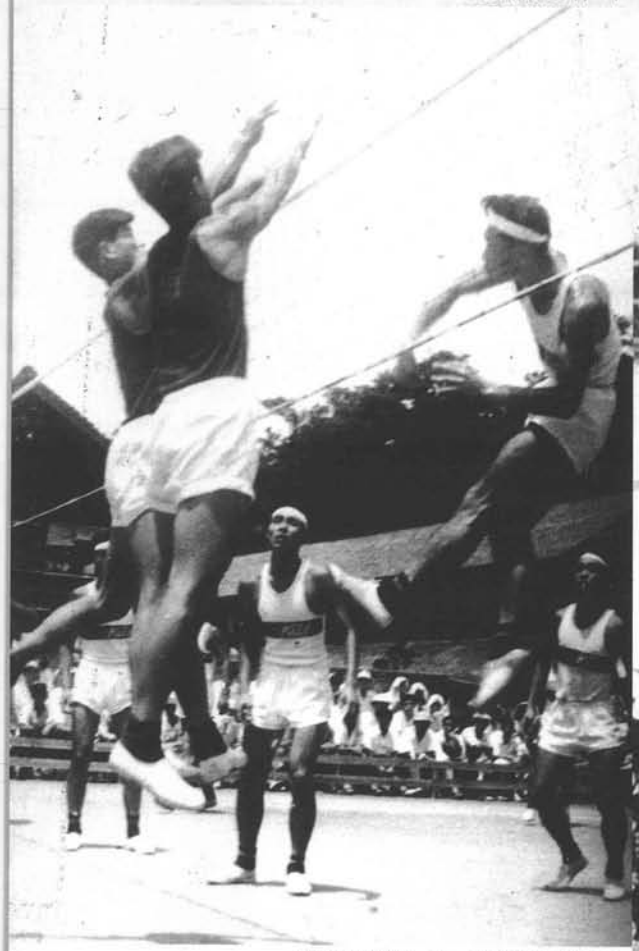
1943(昭和18年)・10・16　学徒出陣壮行早慶戦。安川のフェイント。(於早大コート)

1943(昭和18年)　軍事教練時。左より佐久間、安川(兄)、田代。

1946(昭和21年)　第1回慶関定期戦。(於西宮)

1951(昭和26年)・7・22　全日本大学選手権優勝。(於金沢)

1951(昭和26年)　全日本総合選手権優勝。天皇杯獲得。(於山口)



1951(昭和26年)　エース長島の猛スパイク。

1951(昭和26年)　塾バレーボール部得意の時間差攻撃。

1954(昭和29年)　全日本大学選手権優勝。(於明石)

1955(昭和30年)　秋リーグ戦優勝。(於田園コロシアム)

1956(昭和31年)　全日本大学選手権。

1964(昭和39年)　全日本大学選手権優勝。(於大阪)

1959(昭和34年)　全日本総合選手権 3 位。(於前橋)深川主将のスパイク。

1966(昭和41年)・4・24　第30回早慶定期戦優勝。

1960(昭和35年)　秋リーグ戦、滝口のスパイク。

1969(昭和44年)　秋リーグ戦。

1969(昭和44年)・12　台湾・香港遠征時。左二人目より右へ、石川部長(当時)、小池前部長、木村先輩、佐藤コーチ、久保田監督。

1970(昭和45年)　中沢部長就任。

1974(昭和49年)　関東大学選手権、木下のフェイント。

1931　YMCAの星野柳太郎先輩により関東学生排球連盟結成の動きが伝えられ、赤石、平岡、小川、高橋が中心となり、幼稚舎の原六郎先生をコーチに迎え、慶應義塾排球倶楽部を創設。幼稚舎運動場にて練習開始。小池隆一先生を部長に迎える。

1932　春、関東学生排球連盟結成と同時に加盟。／6　第1回リーグ戦に参加。2位(参加校は帝大、早大、日大、横浜商工、浦和高校、慶大)／秋　塾内対抗競技部新種目団体に加入。

1935・6・1　第1回早慶バレーボール定期戦開催。早大3－0慶應。

1936　春、関東学生排球連盟は大学と高専を分離し、関東大学排球連盟を設立。(参加校は慶大、早大、東京帝大、東京商大、立大、文理大、日大、明大の8校)／秋　リーグ戦2勝5敗にて6位。日吉蝮谷コート完成。

1937　春季リーグ6位、秋季リーグ5位。

1938　春季リーグ2位、秋季リーグ2位。／12・7　春日神社にて部旗入魂式を行う。

1939〜1940　リーグ戦は3位、8位、6位、4位に止まり、早慶定期戦も通算6連敗。

1941・1・21　排球部体育会に加入。同時にOB会組織の三田排球倶楽部を創立。

1942　春、リーグ戦2位となるも、創部以来初めて早稲田に勝つ。

1943　文部省通達「戦時学徒体育訓練実施要項」により球技全面中止のため、リーグ戦中止。／10・16　早大コートにて学徒出陣学生送別早慶戦を挙行。早大3－2慶大。

1944・9・10　第2回学生出陣学生送別早慶戦を国民体育館にて挙行。早大3－0慶大。

1945・10　授業再開とともに、三田校舎裏運動場にて練習再開。

1946・5・26　復活第1回早慶定期戦開催。早大3－2慶大(通算10連敗)。／6　復活第1回リーグ戦4勝2敗で3位。／11・10　関西学院大学との間に第1回慶関定期戦開催(西宮コート)。慶大3－2関学。

1947・4・29　現役・OB一体となって技術を磨く目的で、第1回全早慶明定期戦を開催。／6　関東学生選手権大会、優勝。創部以来初めて優勝の味を味う。同年のリーグ戦は春3位、秋2位。

1948・7　第1回全日本学生選手権大会開催(田園コロシアム)、3位に終わる。秋季リーグ戦で9勝1敗にて念願の初優勝。(創部17年目)

1949・4・29　第13回早慶定期戦に3－0で初勝利。リーグ戦は春、秋とも2位。

1950　春、秋リーグ戦を連覇。黄金時代へ。

1951　春秋リーグ、2位。／7　全日本大学選手権大会を1セットも失わずに初優勝。／8　全日本総合選手権大会、優勝、天皇杯獲得。／12　第1回全日本選抜優勝大会優勝。

1952・7　全日本大学選手権大会連覇ならず

1976(昭和51年)　全日本大学選手権、中上のスパイク。

1990(平成2年)　第43回全日本インカレ。大西のクイック。クイックをおとりとした時間差攻撃は、塾バレー部があみだしたものである。

準優勝。リーグ戦、春4位、秋優勝。

1953・7　全日本大学選手権大会、準優勝。リーグ戦、春3位、秋2位。

1954　バレーボール部史上最強チーム完成。春秋リーグ戦優勝。／7　全日本大学選手権大会で2回目の優勝。／8　国民体育大会に初優勝。／10　全日本総合選手権大会、3位／11　全日本選抜優勝大会にも2回目の優勝。

1955・7　全日本大学選手権大会、3位。リーグ戦、春5位、秋優勝。

1956　春、リーグ戦1勝9敗で最下位となり、入替戦にも敗れ、初めて2部転落。

1957　2部リーグでは優勝したが1部復帰ならず。この年、日本バレーボール協会が6人制を採用。／12　関東大学6人制選手権大会で準優勝。

1958　秋、入替戦に勝ち、1部復帰。

1959　リーグ戦春4位、秋5位。／8　全日本総合選手権大会、3位。この年リーグ戦で6人制併用開始。第1回リーグ戦は9校中8位。

1960　6人制リーグも6校制となり、2部よりスタート。

1961　大学生にとって9人制最後の年。最後の9人制リーグは6位。／8　創部以来初めての海外遠征で大韓民国へ。(4勝4敗)

1962　大学選手権大会、リーグ戦ともに本格的に6人制時代へ。リーグ戦は2部。

1963・7　全日本大学選手権大会、3位。

1964　春、リーグ戦で念願の1部復帰。／7　全日本大学選手権大会で3回目の優勝。／12　2回目の海外遠征で香港、マカオへ。(11戦全勝)。この年、東京オリンピック大会開催。松平康隆が男子チーム・コーチ。

1965　春、リーグ戦で再び2部転落。

1966　秋、リーグ戦で1部復帰。

1967　春、リーグ戦で2部に転落したが、全日本大学選手権大会で3位。全日本総合選手権大会でもベスト8。

1968　春秋リーグとも2部優勝。この年、メキシコオリンピックに松平康隆、男子チーム監督で参加。

1969・5　創部以来の部長小池先生定年のため、石川忠雄先生を部長に迎える。春リーグ戦で4シーズンぶりに1部復帰。／12　3回目の海外遠征で台湾、香港へ。(6勝3敗)

1970・4　3代目部長に中沢達夫先生を迎える。春リーグ戦で2部転落。この春季リーグ戦を最後に1991年現在まで1部リーグの経験なし。

1971〜1972　2部2〜3位。

1972　ミュンヘンオリンピックで松平康隆、男子監督として金メダル獲得。

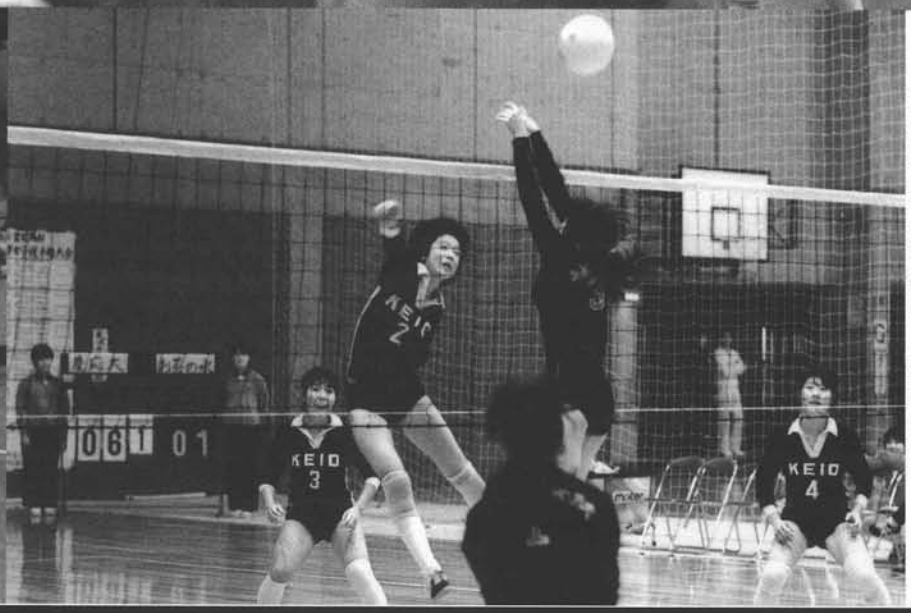
1973　2部優勝。早慶定期戦は3－0で8年ぶりの勝利。

1974　春、初めて3部転落。秋には2部復帰。

1976　春、再び3部転落。この年を最後に2部にも遠のく。

1987(昭和62年)　全日本大学選手権、河野みどり主将のスパイク。

1983(昭和58年)　東日本大学選手権、小倉由布子のスパイク。



1983(昭和58年)　全日本大学選手権、入交美和のスパイク。

1977　春、初めて4部に転落。
1978　中沢部長敷地内に合宿所ができる。秋3部復帰。
1980　春、再び4部転落。
1981　女子部、同好会として発足。関東大学リーグ戦の参加を認められる。10部よりスタート。
1982　春、4シーズンぶりに3部復帰。
1984〜1985　3季連続3部優勝を遂げるが、2部復帰ならず。女子部は84年、春5部昇格とともに体育会女子バレーボール部として承認。秋、4部昇格。この年、第1回女子早慶定期戦開催。2－0で完勝。
1986　秋、女子部、3部に昇格。早慶戦3連勝。
1987　春、残念ながら3度目の4部転落。現在に至る。女子部、秋に4部に転落。
1989　女子部、春秋連続してリーグ戦降格し、6部へ。
1991　4部優勝の力は備わってきたので、4年ぶりの3部復帰を目指し、部員全員、努力を傾注中。女子部、春に5部復帰。

1989(平成元年)　大学ビーチバレーボール選手権(於藤沢)で活躍した堀尾、金子、両選手。